

2021年8月31日

報道関係各位

東京建物株式会社

2021年度版 DBJ Green Building 認証を取得 ～5物件について新規取得～

東京建物株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員：野村 均）は、脱炭素社会の実現に向けて、温室効果ガス（GHG：Greenhouse Gas）排出量削減の中長期目標を設定し、CO2 排出量^{※1}を2030年度までに40%削減（2019年度比）、2050年度までにネットゼロを目指しており、目標達成に向けた具体的なアクションのひとつとして「グリーンビルディング認証^{※2}の取得」を掲げています。

当社はこれまで、当社が開発した大手町タワー、東京スクエアガーデン、中野セントラルパークサウス、Hareza Tower 他計9物件について「DBJ Green Building 認証」を取得してまいりました。（後掲の＜参考資料＞ご参照。）

今般この取り組みをさらに進め、稼働中のオフィス5物件（新宿センタービル、東京建物仙台ビル、エンパイヤビル、横浜ファーストビル、日本橋TIビル）についても、新たに「DBJ Green Building 認証」を取得しましたのでお知らせします。

1. 「DBJ Green Building 認証」取得ビルおよび評価ランク

種別	物件概要	外観写真	評価ランク
オフィスビル	<p>新宿センタービル</p> <p>東京都新宿区西新宿 一丁目25番1号</p> <p>1979年10月竣工</p>		 <p>DBJ Green Building 2021 </p> <p>極めて優れた 「環境・社会への配慮」 がなされた建物 (4つ星)</p>
オフィスビル	<p>東京建物仙台ビル</p> <p>宮城県仙台市青葉区 中央一丁目6番35号</p> <p>2009年11月竣工</p>		 <p>DBJ Green Building 2021 </p> <p>極めて優れた 「環境・社会への配慮」 がなされた建物 (4つ星)</p>

<p>オフィスビル</p>	<p>エンパイヤビル</p> <p>東京都中央区八丁堀 二丁目 23 番 1 号</p> <p>2017 年 9 月竣工</p>		 <p>極めて優れた 「環境・社会への配慮」がなされた建物 (4つ星)</p>
<p>オフィスビル</p>	<p>横浜ファーストビル</p> <p>神奈川県横浜市西区 北幸一丁目 6 番 1 号</p> <p>1998 年 8 月竣工</p>		 <p>非常に優れた 「環境・社会への配慮」がなされた建物 (3つ星)</p>
<p>オフィスビル</p>	<p>日本橋 TI ビル</p> <p>東京都中央区日本橋本 町三丁目 1 番 1 号</p> <p>2012 年 7 月竣工</p>		 <p>非常に優れた 「環境・社会への配慮」がなされた建物 (3つ星)</p>

2. 「DBJ Green Building 認証」の取得において評価されたポイント

<p>物件名称</p>	<p>評価されたポイント</p>
<p>新宿センタービル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外気冷房システムの採用、建物の LED 照明化、基準階共用部の人感センサーの採用、自動水栓、節水型便器の採用等、建物の省エネルギー性・省資源に配慮している点 ・建物内に飲食店やコンビニ等利便施設の導入に加え、貸会議室や無料 Wi-Fi の設置など、オフィス従業員の利便性に配慮している点 ・エントランスロビー・EV 内での音楽、入居者満足度調査の実施等により、入居者の快適性に配慮している点
<p>東京建物仙台ビル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Low-E ガラスの導入、全熱交換器の設置により空調エネルギーを削減する他、基準階共用部の人感センサーの設置、建物内の過半範囲で LED 化を実施する等、照明エネルギーの削減にも努めている点 ・基準階への眺望に配慮したリフレッシュコーナーの設置、貸会議室の設置、入居者満足度調査の実施等、テナント従業員の利便性・快適性に配慮している点 ・制震工法の採用、テナント用非常用発電機置き場の設置、非常用発電機その他に 2 回線受電の採用、防災用マンホールの整備等、建物の防災性に配慮している点

エンパイヤビル	<ul style="list-style-type: none"> ・Low-E ガラスの導入、ルーバーの設置、全熱交換器の設置により空調エネルギーを削減する他、基準階共用部の人感センサーの設置、建物全体のLED化等で照明エネルギーの削減にも努めている点 ・最上階へのリフレッシュコーナーの設置、共用部へのアロマの設置、入居者満足度調査の実施等、テナント従業員の快適性に十分に配慮している点 ・テナント用の非常用発電機置場の設置、共用部非常用発電機の他に2回線受電が可能である点、優れた耐震性能を有する点により、建物の防災性に配慮している点
横浜ファーストビル	<ul style="list-style-type: none"> ・全熱交換器、基準階共用部の人感センサーの採用、自動調光システムの設置、建物のLED照明化等により、省エネルギーに配慮している点 ・廃棄物の消費抑制やリサイクルの適正化について、テナントに対し十分な取り組みを行うとともに、廃棄物のマニフェスト電子化を導入する等環境に対し配慮している点 ・非常時にテナント専用部への予備電力を確保している点に加え、防災用マンホールの整備等、建物の防災性に配慮している点
日本橋 IIビル	<ul style="list-style-type: none"> ・全熱交換器、Low-Eペアガラス、自動調光システムを設置する他、節水型水栓・節水型トイレの採用等、省エネ・省資源を促進している点 ・建築基準法で定められた125%以上の耐震性の確保、専用部への15VA/m²の電力供給が可能な非常用発電機の設置、防災用マンホールトイレの設置等、利用者の防災性に配慮している点 ・エントランスへの香り空調の実施、入居者満足度調査の実施等により、入居者の快適性に配慮している点

3. 「DBJ Green Building 認証」の概要

「DBJ Green Building 認証」とは、不動産を通じた環境への取り組みを評価する制度で、2011年4月に株式会社日本政策投資銀行により創設されました。環境・社会への配慮がなされた不動産について、環境性能のみならず、テナントや地域との連携、耐震性能なども含めて総合的に評価し、優れている物件に対して、5段階のランクで認証を付与するものです。

4. 東京建物の取り組みについて

東京建物グループは、2030年頃を見据えた長期ビジョン「次世代デベロッパーへ」に基づき、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス排出量削減の中長期目標を掲げ、CO₂排出量を2030年度までに40%削減(2019年度比)、2050年度までにネットゼロを目指しています。また、中長期目標の達成に向けて、再生可能エネルギーの導入^{※3}、ZEB^{※4}・ZEH^{※5}の開発、グリーンビルディング認証の取得といった脱炭素社会の実現に向けた具体的な取り組み(後掲の<参考資料>ご参照)を推進し、引き続き持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

東京建物グループのサステナビリティの取り組みについては、以下をご参照ください。

東京建物サステナビリティ公式サイト：<https://tatemono.com/csr/>

以上

<参考資料>

● 東京建物グループの「DBJ Green Building 認証」取得物件一覧

評価ランク	物件概要
★★★★ ★★	大手町タワー
	東京スクエアガーデン
	中野セントラルパークサウス
	Hareza Tower
	SMARK 伊勢崎
	Brillia ist Tower 勝どき
★★ ★★	東京建物日本橋ビル
	東京建物八重洲ビル
	大崎センタービル

● 東京建物グループの温室効果ガス排出量削減の中長期目標：

CO2 排出量を 2030 年度までに 40%削減 (2019 年度比)、2050 年度までにネットゼロ



● 中長期目標達成に向けたアクション：

- 2030 年度までに、保有する不動産で消費する電力の 40%を再生可能エネルギー化、2050 年度までに、事業活動で消費する電力の 100%を再生可能エネルギー化
- 2030 年度までに、原則としてすべての新築オフィスビル・物流施設・分譲マンションにおいて、ZEB・ZEH を開発
- 2030 年度までに、原則として開発するすべての新築オフィスビル・物流施設においてグリーンビルディング認証を取得

● 2021 年 6 月 4 日プレスリリース「温室効果ガス排出量削減中長期目標を設定」

<https://pdf.irpocket.com/C8804/M6bm/ZL5b/qYYf.pdf>

[注]

- ※1 CO2 排出量：Scope 1、2、3 の総量。
 Scope 1：東京建物グループでの燃料使用による直接排出量
 Scope 2：東京建物グループが購入した電気・熱の使用による間接排出量
 Scope 3：その他事業活動にともなう間接排出量（建物の建築工事や販売した不動産の使用等）
- ※2 グリーンビルディング認証とは、建設や運営にかかるエネルギーや水使用量の削減、施設の緑化など、建物全体の環境性能が高まるよう最大限配慮して設計された建築物を客観的に評価する指標。日本では、株式会社日本政策投資銀行（DBJ）が実施する「DBJ Green Building 認証」制度や、国土交通省が支援する認証制度で、建築物の環境性能や快適性などさまざまな側面から評価・認証を行う「CASBEE（建築環境総合性能評価システム）」、建築物の省エネルギー性能を表示する第三者認証制度「BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）」などの認証プログラムがある。
- ※3 再生可能エネルギーに分類される非化石証書の活用を含む。

- ※4 ZEB とは、「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル」の略称で、先進的な技術の採用による大幅な省エネ化、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建築物。ZEB には、Nearly ZEB (75%以上省エネ)、ZEB Ready (50%以上省エネ)、ZEB Oriented (延床面積 10,000 m²以上で、事務所等は 40%以上省エネ、ホテル等は 30%以上の省エネ) 等があり、これらを取り組みの対象に含む。
- ※5 ZEH とは、「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の略称で、断熱や省エネルギーなどのエネルギー消費低減と発電によるエネルギー創出を総合して、年間の一次消費エネルギー量の収支をゼロにすることを旨とした住宅。集合住宅である ZEH-M には、Nearly ZEH-M (75%以上省エネ)、ZEH-M Ready (50%以上省エネ)、ZEH-M Oriented (20%以上省エネ) 等があり、これらを取り組みの対象に含む。

【SDGsへの貢献】

※本リリースの取り組みは、SDGs (持続可能な開発目標) における 6つの目標に貢献しています。

- 目標3 すべての人に健康と福祉を
- 目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標11 住み続けられる街づくりを
- 目標13 気候変動に具体的な対策を
- 目標17 パートナリーシップで目標を達成しよう

